

寺中サロン

～居場所開催に合わせた美化活動で男性大活躍！～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

寺地中自治会内（黒埼圏域）

➔ 事業内容

月に1回、サロンを開催。以下の活動を合わせて行っている。

- ・地域活動 … 随時、自治会内の清掃活動を行う。
- ・健康づくり … 近隣の公民館にて卓球を楽しみ、汗を流す。
- ・他者交流 … 夜はカラオケや食事で、地域での親睦を深める。

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

新聞に投稿されていた「晩酌の会」を見たことがきっかけで、そこからヒントを得て自治会内での活動を始めた。

➔ 事業実施までのプロセス

平成25年、自治会内の有志10名ほどでサロンを開始。サロンの活動に合わせて、地域のクリーン活動や公民館での卓球を行うようになった。現在では女性参加者も加わり、地域での交流が進んでいる。

➔ 利用料・参加費

1回 1,500円



➔ 財源・活用している補助金

- ・集会所での食事は参加費から拠出
- ・地域の茶の間・ふれあいいきいきサロン助成事業



➔ 事業の効果・運営上の課題等

- ・自治会内のポイ捨てが減り、地域が綺麗になってきている。
- ・地域住民同士の結びつきが強くなった。
- ・男性参加者がなかなか増えない。



地域活動



健康づくり



他者交流



新中浜おたすけ隊 ～地域の困りごとを有償で助け合う～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

新中浜町内会内（内野・赤塚・中野小屋圏域）

➔ 事業内容

除雪、草取り、ゴミ捨て、粗大ゴミ出し、空き家・空き地管理、町内の側溝清掃などの町内行事全般への支援

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

町内会長や役員などの限られた人数では約700世帯の町内会の運営は難しいことから、状況を打開するため町内で複数の組織を作り、その中の1つとして設立した。

➔ 事業実施までのプロセス

設立準備期間だった平成22年に、やりたいことや活動目的を町内の住民一人ずつに説明し、徐々に輪が広がった。

➔ 利用料・参加費

なし

➔ 財源・活用している補助金

空き地や空き家の草刈り等の管理を請け負い、得た収入をもとに運営。

➔ 事業の効果・運営上の課題等

町内での認知度が高く、依頼数も多くなっている。住民の安心につながっている。



側溝清掃



除雪



支え合いワークショップ ～住民×学校×事業所での連携と協働～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

赤塚中学校区周辺（内野・赤塚・中野小屋圏域）

➔ 事業内容

- ・ワークショップを開催し、交流及び意見交換を実施
- ・健康づくりイベントなど、ワークショップで出た事業案の実施

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

新潟国際情報大学の先生より、学生・地域住民とでお互いが連携したゆるやかな支え合いを進めるため、ワークショップをやりたいとのお話があった。

➔ 事業実施までのプロセス

- | | | |
|-------|-----|---|
| 平成30年 | 4月 | 第1回打ち合わせ開催 |
| | 6月 | 第1回ワークショップ開催 |
| | 7月 | 振り返り実施。具体的な事業化を進めるため、半年程度で成果を上げることを目指し、企画立案。 |
| | 9月 | 第2回ワークショップ&交流会開催。以下の事業案が出された。
①みずき野でフラワーロード・クリスマスツリー展示（支え合い活動の基盤づくり）②健康づくり（介護予防）イベント |
| | 10月 | 第3回ワークショップ&交流会開催 |
| | 11月 | 第4回ワークショップ&交流会開催
29日／クリスマスツリー展示（越後赤塚駅前） |
| 平成31年 | 3月 | 17日／健康づくりイベント開催（新潟国際情報大学） |

➔ 利用料・参加費

なし ※上記、交流会は参加者の持ち寄りで実施

➔ 財源・活用している補助金

なし ※今後の活動内容等にあわせて検討していく

➔ 事業の効果・運営上の課題等

上記プロジェクト以外に、地域と先生・学生とが連携した取り組みが見え始めている。（新潟看護専門学校で、近隣の地域の茶の間参加者を対象としたツボ押し・健康講座の開催。近隣自治会の文化祭で新潟国際情報大学茶道部がお点前を披露するなど。）



健康づくりイベント



坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会 ～ネットワークづくり～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

坂井輪小・小新中学校区内（小針・小新圏域）

➔ 事業内容

坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会ブロック会議
「民生委員と自治会長の連携」

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

ここ数年、まちづくり協議会は自治会長と民生委員の繋がりが薄いと感じていた。平成29年11月に自治会の福祉部担当者を招請し、アンケートを取ったところ、民生委員との繋がりをもちたいとの意見が多くあがった。地域づくりには自治会長と民生委員との連携が不可欠であり、その橋渡し役はまちづくり協議会の大事な役割であると思い、話し合いの場を企画した。

➔ 事業実施までのプロセス

- ・まちづくり協議会で校区内をA B C Dの4ブロックに分け、会議の日程を決めた。
- ・その後それぞれの自治会長、民生委員に連絡。会議を4日間開催した。

➔ 事業の効果・運営上の課題等

- ・自治会長、民生委員との顔合わせができ、相互理解が深まり連絡が取りやすくなった。
- ・反面、毎年多くの自治会長が交代し、民生委員との関係性がつながらないことがあるため、両者それぞれの引き継ぎが課題である。



自治会長と民生委員との
意見交換



黒埼地域内の事業所・団体向け ～支え合いのしくみづくり勉強会～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

黒埼中学校区内の事業所・団体（黒埼圏域）
介護・障がい等事業所、病院・薬局等医療機関、教育機関、公民館等公共機関、郵便局・銀行等金融機関、有償ボランティア等の団体、スーパー・個人商店等商業施設

➔ 事業内容

- ・黒埼地域で聞かれる困りごと、事業所等が行う地域活動事例の紹介
- ・地域の中でどんな取り組みをしていくことができるかの意見交換

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

自治会等地域での助け合いの取り組みが、住民だけでは形になりづらい現状が聞かれた。そのため、事業所や団体の協力も得ながら地域全体での支え合いのしくみづくりが必要になると考え、支え合いのしくみづくり推進員が中心となり、勉強会を開催した。

➔ 事業実施までのプロセス

- ・地域住民から、困りごとや取り組みの課題について聞き取り
- ・事業所や団体へ、関心のある地域の困りごとについて調査
- ・事業所や企業が行う地域の課題に対しての活動事例を収集
- ・平成31年2月8日 勉強会開催

➔ 事業の効果・運営上の課題等

勉強会后、事業所として何か地域貢献ができないかと話があり、地域とのマッチングを行った。地域住民と事業所との意見交換に繋がり、今後地域に向けての取り組みを予定している。また、翌年2月には、事業所・企業×地域住民での意見交換会を開催し、困りごととして多く聞かれる‘買い物’をテーマに、地域でどんな取り組みが必要なのか話し合った。地域全体で困りごとに対しての意識が高まるなど、効果が出ている。



意見交換



グループでの発表



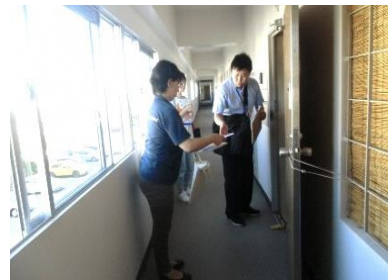
マンション青山カメラア自治会 ～自治会と専門職による全戸訪問～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

マンション青山カメラア内（小針・小新圏域）

➔ 事業内容

ふれあい家庭訪問



ふれあい家庭訪問

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

自治会長が両親の介護経験から介護の大変さを感じ、同じ思いをしている人が自治会にもいるのではないかと、自治会活動として何ができると考えていた。マンション内の高齢化が浮き彫りとなる中、地域包括支援センター担当者との出会いがあり、自治会と専門職が目的・目標を共有しながらお互いの強みを生かした取り組みを検討した。「待ちの姿勢」ではなく「こちらから出向いていく」という思いが一致して、自治会と行政・社協・包括が協働しての全戸訪問の実施へと繋がった。

➔ 事業実施までのプロセス

- 平成30年 5月 自治会役員・地区担当保健師・社会福祉協議会・地域包括支援センターで検討開始
- 6月 訪問日・訪問時の留意点等の話し合い
住民への周知（回覧・ポスター掲示）
全戸に配布する「カメラアふれあいマップ」編集
- 7月 訪問最終打ち合わせ
- 7～10月 全4回訪問実施
- 平成31年 1月 訪問の振り返り・次年度に向けての改善点を検討

➔ 事業の効果・運営上の課題等

自治会と専門職が企画から実施まで協働することで、自治会全体の実態を知ることにつながった。また、自治会や関係機関の連絡先を記載した「カメラアふれあいマップ」を配布したことで、保管している方も多く、役立つツールとなった。一方で、自治会全ての方に主旨を理解していただくことが難しく、今後の課題となっている。



カメラアふれあいマップ



訪問後の振り返り



寺尾上町自治会

～居場所を拠点とした見守り活動～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

寺尾上町自治会内（坂井輪・五十嵐圏域）

➔ 事業内容

自治会館を拠点に、地域の茶の間「かみまち広場」、老人会「長寿会」のほか、体操や手芸の集まりや自治会の祭りなど、様々な地域住民参加の活動が行われている。自治会の役員、民生委員、友愛訪問員などがそれぞれの居場所の活動に関わり見守りをする中で、日ごろからの助け合いや、支援を必要とする際には専門機関への相談につながられている。

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

自治会館を中心とした様々な自治会活動に取り組んでいく中で、次々と集まりの場・機会がつくられていった。

➔ 事業実施までのプロセス

平成元年に自治会館を建て替え。それまでも体操などのサークルや老人会の集まりは開催されていたが、当時の自治会長の声かけで新たな集まりの場として、地域の茶の間「かみまち広場」が立ち上げられた。地域の集まりや自治会活動を通して集まった声をもとに、友愛訪問などの活動もはじまった。

自治会館を拠点としたことで、自治会役員、民生委員、友愛訪問員などで顔を合わせて情報交換することができ、地域の困りごとや新たな活動などを把握し、支援や活動の方針を話し合うことができている。

➔ 利用料・参加費

それぞれの集まりによる

➔ 財源・活用している補助金

地域の茶の間・ふれあいいきいきサロン助成事業など

➔ 事業の効果・運営上の課題等

多様な集まりがあることで住民の参加の幅が広がり、多くのつながりが生まれている。また、それを活かして困りごとの相談をしたり、声をかけあう自然な支え合いになっている。次の世代にスムーズに引き継いでいけるかが課題。



拠点の自治会館

自治会外の方も通える体操



この日のかみまち広場は勉強会



あかつかきりんカフェ ～居場所での多世代交流～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

赤塚小学校区周辺（内野・赤塚・中野小屋圏域）

➔ 事業内容

子どもの居場所と地域の茶の間の機能を併せ持つ多世代交流事業（月1回実施）

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

「地域住民の心温まる、第2のおうちになる」を目的として、新潟大学の学生チームが企画。かねてから住民のための居場所提供を考えていた高齢者福祉施設や地域住民、民生委員などと一緒に実行委員会を結成した。

➔ 事業実施までのプロセス

平成30年12月	新潟大学の学生グループが企画書作成
平成31年1月	会場予定のケアプランセンター桜井の里・あかつかにて、施設職員と学生グループとの初打ち合わせ
2月	実行委員会を結成し、プレ開催の企画会を実施
3月	プレ開催実施
令和元年6月	定期開催開始

➔ 利用料・参加費

大人（高校生以上）100円
子ども（中学生以下）無料

➔ 財源・活用している補助金

- ・参加費
- ・地域の茶の間・ふれあいいきいきサロン助成事業



参加者手作りのカフェの表示

➔ 事業の効果・運営上の課題等

- ・児童の参加人数に波があるが、毎回必ず参加する児童もいて、温かな交流が児童と地域住民との間で生まれつつある。
- ・近隣の専門学校と連携し、先生や学生から体操の指導をしてもらう取り組みにより、高齢者の参加促進や、地域と学校との交流につながった。



流しソーメン



西小針台3丁目自治会 ～地域の茶の間を拠点とした見守り～

➔ 対象地域（日常生活圏域）

西小針台3丁目自治会内（坂井輪・五十嵐圏域）

➔ 事業内容

地域の茶の間「日向ぼっこ」を中心として、自治会（福祉部）、友愛訪問などで協働しての見守りや助け合い。

➔ 事業を始めた理由・きっかけ

高齢化が進む中で、地域の茶の間を開設。そうした集まりに来ない方へもアプローチしようと考えたことが活動のきっかけとなった。

➔ 事業実施までのプロセス

13年前に空き家を活用して地域の茶の間を開設。来られない方のところに「お元気ですか」と茶の間の内容に触れた手紙や資料を届けるようになり、自治会（福祉部）とも検討のうえ友愛訪問を開始した。茶の間から派生した集まりもある。

➔ 利用料・参加費

茶の間参加は1人100円

➔ 財源・活用している補助金

- ・新潟市地域の茶の間支援事業補助金
- ・自治会からの助成

➔ 事業の効果・運営上の課題等

茶の間があることで地域の人が集まることができ、情報の共有や困りごとの相談ができる。友愛訪問や自治会役員との情報交換も集まって行っている。「日向ぼっこ」から派生した、太極拳や麻雀などの集まりもあり、お喋りだけでなく選択ができることから参加者が増えた。旅行や講座の開催時のみ参加する方もいるが、顔つなぎができていたので、茶の間の参加にもつながる。次の世代にどう引き継いでいくか（担い手不足）が課題。



空き家を活用



地域の茶の間の様子



西区 支え合いのしくみづくり推進員

小針・小新圏域

TEL：025-201-1351（地域包括支援センター小新小針内）

坂井輪・五十嵐圏域

TEL：025-211-8084（社会福祉法人坂井輪会道場山穂波の里内）

黒埼圏域

TEL：090-4203-4839（地域包括支援センター黒埼内）

内野・赤塚・中野小屋圏域

TEL：025-264-3377（地域包括支援センター赤塚内）

西区圏域（西区全体に関わるもの）

TEL：025-211-1630（西区社会福祉協議会内）

お気軽に
ご相談
ください



本パンフレットは西区健康福祉課と支え合いのしくみづくり推進員が連携して作成したほか、P3～4については、支え合いのしくみづくり会議の協力のもと、ワークショップで意見交換を行い、作成しました。

全体ファシリテーター・コーディネーター：今井麻奈美
グループファシリテーター：支え合いのしくみづくり推進員

発行／西区支え合いのしくみづくりチーム

- ・新潟市西区役所健康福祉課
- ・支え合いのしくみづくり推進員

発行日／令和2年3月

編集・ファシリテーター／今井 麻奈美

協力／西区支え合いのしくみづくり会議

新潟市西区役所健康福祉課 地域福祉係

TEL：025-264-7315 FAX：025-269-1670

E-mail：kenko.w@city.niigata.lg.jp

